



大阪公立大学 女性研究者支援室
2024年度 事業報告書

文部科学省科学技術人材育成費補助事業

「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」

学長 ごあいさつ

2022年4月に大阪市立大学と大阪府立大学の統合によって大阪公立大学が発足してから、間もなく3年が経とうとしています。2025年9月には大阪の東西都市軸の東部重要拠点である森之宮の地に、メインキャンパスとして森之宮キャンパスを開設し、地を紡ぎ、未来を育む場所として、異分野を融合・包摂した新たな学問の創造と多様な世界市民の育成を目指します。

大阪公立大学ダイバーシティ宣言では、3つの理念のうちの1つに「2. 多様性に配慮し、各人が能力を発揮することができるように助け合う」を掲げ、ジェンダー平等、ダイバーシティを推進し、インクルーシブな社会の実現に資する役割を果たすべく取り組んでいます。また、大阪公立大学開学にあたり、今後本学が目指す事項を取りまとめた「大阪公立大学 vision 2030」では、アクションプランの中に「女性研究者が能力を発揮できるための教育研究環境の充実」を掲げ、女性研究者が能力を十分に発揮できるよう、教育研究環境整備やキャリアアップ支援を行い、女性教員の割合を増やし、それによる社会イノベーションの創出を図れるような多様性ある研究者組織の構築の実現に向け取り組んでいます。

2023年度に選定された令和5年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」では、女性研究者の活躍を「見える化・魅せる化」し、「景色を変える」ことをコンセプトに掲げています。これを実現するためにも、積極的に女性研究者の教授職や執行部などの上位職登用を推進していきます。

本学の優れた人材が、常に新しいことにチャレンジする高い志や進取の気風をもって、性別や人種・国籍などを問わず活躍できるよう、大学全体で人材育成に取り組んで参ります。今後とも、ご支援・ご協力賜りますよう、お願いいたします。



大阪公立大学 学長

辰巳 砂 昌弘

女性研究者支援室長 ごあいさつ

「大阪公立大学女性研究者支援室」は、前身である大阪府立大学と大阪市立大学で実施してきた女性研究者支援とダイバーシティ推進の取組を発展的に統合し、「研究環境整備」、「研究者育成」、「研究力向上・リーダー育成」、「女性研究者の採用・上位職登用促進」の4つを柱に研究者支援に取り組んでいます。具体的には、妊娠・出産・育児・介護支援のための「研究支援員制度」、研究力向上のための「スキルアップ支援セミナー」や「RESPECT 共同研究助成」、未来の女性研究者を育成する「理系女子大学院生チーム IRIS の活動支援」などを実施しています。

2023年度に令和5年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」に選定されたことを機に、関係各所との連携をさらに深め、本学が掲げたコンセプト「研究者が来たい・辞めない・活躍できる大学」、「女性研究者の見える化・魅せる化」の実現に向けて、総力で取組を進めています。

また、支援事業のより一層の充実を図るため、大阪公立大学・高専基金（OMU 基金）内に、「女性研究者支援事業の充実のために」を創設し、いただいたご寄附を研究者のワーク・ライフ・バランス支援や女性研究者のキャリアアップ支援等に活用しております。

支援事業を通して、女性研究者だけでなく、全構成員がいいきと活躍できる研究・教育環境の整備に努めてまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願いたします。



大阪公立大学 学長補佐・
女性研究者支援室長
工学研究科／工学部 教授

森澤 和子

目次

● 学長 ごあいさつ	1
● 女性研究者支援室長 ごあいさつ	1
● 事業概要	3
● 実施体制	3
● 文部科学省科学技術人材育成費補助事業 「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」 外部評価委員会	5
● 事業報告	7
事業一覧	
I 女性研究者採用・上位職登用促進	7
【新】ダイバーシティ研究環境整備費制度	
【新】プロモーションメンタープログラム	
II 研究力向上・リーダー育成	8
RESPECT 共同研究助成	
スキルアップ支援セミナー	
女性研究者外国語論文校閲費助成事業	
【新】科研費申請支援	
III 研究者育成	11
女性研究者表彰制度【岡村賞】	
理系女子大学院生チーム IRIS	
IV 環境整備	11
研究支援員制度	
ベビーシッター割引券発行事業	
学内保育施設	
【新】女性講演者登壇助成	
「会議は17時まで」キャンペーン	
【新】研究者交流会	
キャリアデザインセミナー	
日経STEAM2024 シンポジウム	
広報活動	
【新】学内教職員アンケート	14

事業概要

大阪公立大学女性研究者支援室では、性別に関わらず研究者が能力と個性を發揮して、安心して活躍できる大学を目指し、次の4つを柱にして事業に取り組んでいます。

I. 女性研究者採用・上位職登用促進

女性研究者を増やし、大学執行部や教授等の上位職として活躍できるよう、全学で連携して取り組んでいます。

II. 研究力向上・リーダー育成

女性研究者が研究チームのリーダーとして活躍できるよう支援しています。

III. 研究者育成

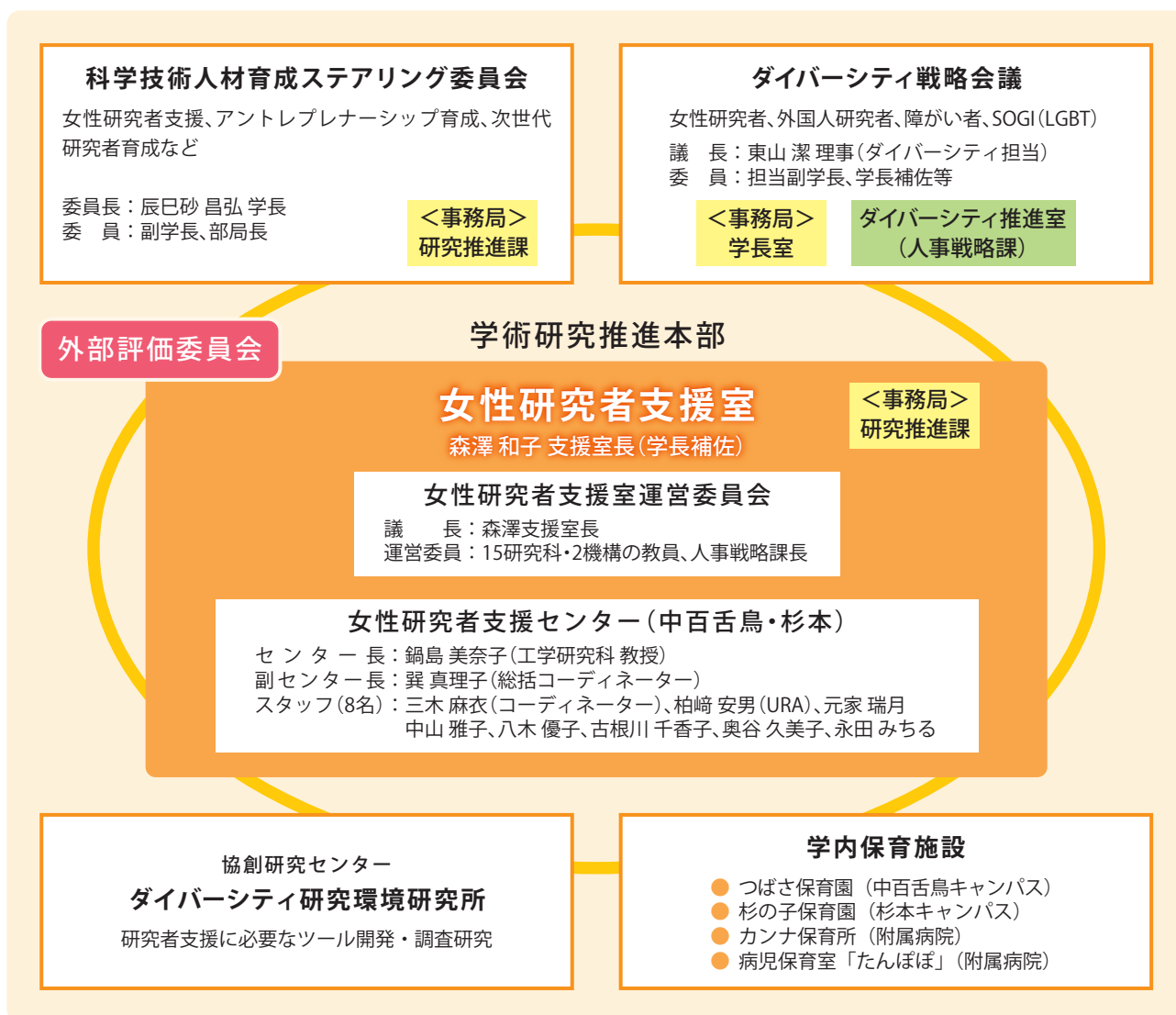
女性研究者・技術者を育成するとともに、その活動を支援しています。

IV. 環境整備

大学の推進体制を整えるとともに、研究者がライフイベント（妊娠・出産・育児・介護等）を抱えても、男女問わず活躍できるよう支援しています。

実施体制

2024年4月1日現在



科学技術人材育成ステアリング委員会

氏名	職名(担当部局)
辰巳 砂 昌弘	学長
櫻木 弘之	副学長(研究戦略、国際戦略)研究推進機構長
高橋 哲也	副学長(教育戦略、情報戦略、計画・評価)
重松 孝昌	副学長(社会連携戦略、都市シンクタンク戦略)、図書館機構長
松原 浩	副学長(教育)、国際基幹教育機構長
秋田 成司	副学長(入試)
松本 淳	副学長(学生)
松井 利之	副学長(国際交流、高度人材育成)
池田 一雄	副学長(学術研究)
藤村 紀文	副学長(産学官共創・知財)
金澤 真理	副学長(コンプライアンス)
真嶋 由貴恵	副学長(部局間連携)
竹中 規訓	現代システム科学研究科長
菅野 正嗣	現代システム科学域長

氏名	職名(担当部局)
佐賀 朝	文学研究科長・文学部長
手塚 洋輔	法学研究科長・法学部長
中島 義裕	経済学研究科長・経済学部長
田口 直樹	経営学研究科長・商学部長
高野 恵亮	都市経営研究科長
宮本 貴朗	情報学研究科長
寺北 明久	理学研究科長・理学部長
綿野 哲	工学研究科長・工学部長
堀野 治彦	農学研究科長・農学部長
山岸 則夫	獣医学研究科長・獣医学部長
鶴田 大輔	医学研究科長・医学部長
樋口 由美	リハビリテーション学研究科長
田中 京子	看護学研究科長・看護学部長
所 道彦	生活科学研究科長・生活科学部長

女性研究者支援室 運営委員会

氏名	部局・職名
森澤 和子	学長補佐(ダイバーシティ・広報)、女性研究者支援室長、工学研究科 教授
鍋島 美奈子	女性研究者支援センター長 工学研究科 教授
内藤 葉子	現代システム科学研究科 教授
平山 亮	文学研究科 准教授
酒井 貴子	法学研究科 教授
岩熊 典乃	経済学研究科 准教授
陳 潔婷	経営学研究科 准教授
細越 裕子	理学研究科 教授
竹田 恵美	理学研究科 准教授
三枝 栄子	理学研究科 講師
小笠原 紀行	工学研究科 准教授
高井 飛鳥	工学研究科 助教
上田 萌子	農学研究科 准教授

氏名	部局・職名
幸田 知子	獣医学研究科 講師
福島 若葉	医学研究科 教授
中岡 和代	リハビリテーション学研究科 講師
高尾 鮎美	看護学研究科 講師
伊藤 良子	看護学研究科 講師
小伊藤 亜希子	生活科学研究科 教授
阿久澤 麻理子	都市経営研究科 教授
村上 晴美	情報学研究科 教授
西垣 順子	国際基幹教育機構 教授
桑原 希世子	国際基幹教育機構 准教授
野村 恭代	先端科学研究院 教授
池山 尚高	人事戦略課 課長

事務局

氏名	部局・役職名
井野 真由美	研究推進課 課長
青木 智	研究推進課 課長代理
山尾 あおい	研究推進課 課長代理

氏名	部局・役職名
津田 典子	研究推進課 係長
佐藤 考平	研究推進課 係長
中辻 智子	研究推進課 係員

文部科学省科学技術人材育成費補助事業 ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)

事業期間 2023～2028年度(6年間)

目標 次期の一般事業主行動計画(女性活躍推進)に、目標達成のための行動計画を位置づける。

<数値目標> **専任教員のみ**

- | | | |
|----------|--------------------|-----------------------|
| 2023年度以後 | ●新規採用における女性比率30%以上 | |
| 2028年度 | ●女性教員比率25% | ●教授における女性比率20% |
| | ●准教授における女性比率25% | ●執行部(副学長等)における女性比率25% |

取組概要 大阪市立大学と大阪府立大学で培ってきた全学の支援体制と実績を活かし、女性研究者の活躍支援を加速して推進する。

大阪市立大学と大阪府立大学の
あゆみはこちらよりご覧ください。



サステナブルな人材育成・活用

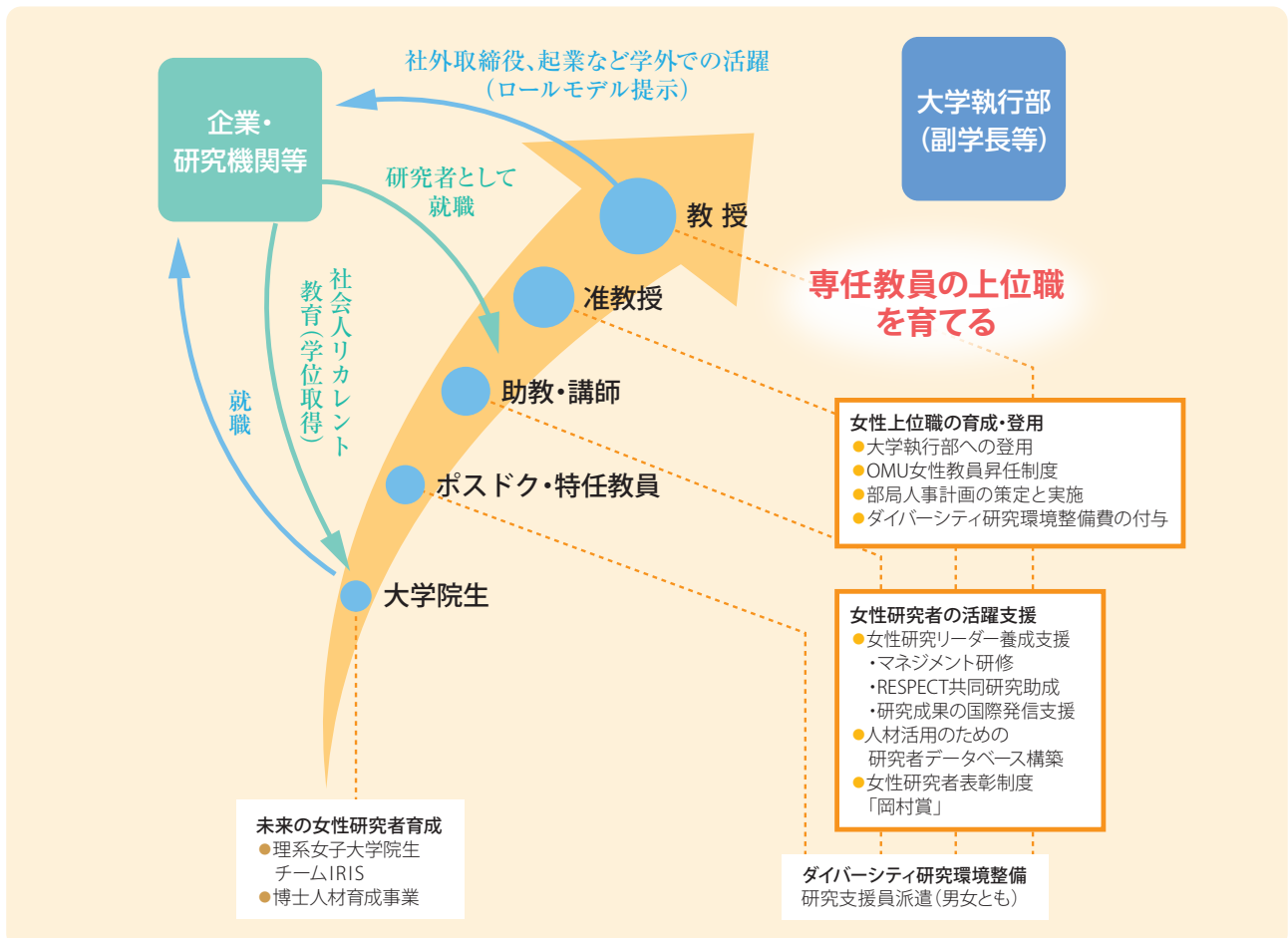
大学院生から執行部まで各段階に合わせた人材育成・活用策により、「研究者が来たい・辞めない・活躍できる大学」になるべく環境整備を強化する。

- OMU女性教員昇任制度(ポストアップ制度)の実施、部局人事計画の策定、ダイバーシティ研究環境整備費の付与
- OMU 基金を活用し、研究支援の資金基盤を強化
- 女性研究リーダー養成支援:RESPECT 共同研究助成、マネジメント研修、研究成果の国際発信支援

景色を変える

上位職(教授、副学長等)および、メディアやシンポジウムに登場する女性比率を上げ、女性研究者の活躍を「見える化・魅せる化」する。

- 人材活用のための研究者データベースの構築と活用
- 未来の女性研究者育成:社会人リカレント教育(学位取得支援)、理系女子大学院生チームIRISや博士人材育成事業との連携



外部評価委員会

事業初年度である2023年度の取り組みについて、事業の実施状況や活動実績を分析し、客観的な視点から評価を得ることで今後のさらなる推進を図るため、外部評価委員会を開催しました。

●実施日程

- 2024年 8月 30日 外部評価委員会開催
- 2024年 9月 13日 外部評価委員による評価回答の提出
- 2024年 9月 26日 総合評価の決定

●外部評価委員

氏名	部局・職名
石井 実	(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
三和 利恵子	大阪府府民文化部男女参画・府民協働課 課長
横山 桂子	西日本電信電話株式会社 常勤監査役

●評価項目

I. 目標達成度

女性研究者の在職比率、上位職比率、採用比率

II. 実施体制

実施体制の構築

III. 取組内容と成果

- (1) 女性研究者の上位職育成・積極登用
- (2) 女性研究者の活躍支援
- (3) ダイバーシティ研究環境整備
- (4) 情報発信・意識啓発

外部評価委員には、左記の項目に対して、4段階評価と記述での回答を依頼した。

S	計画を上回って実施できている。
A	計画どおり実施できている。
B	計画どおり実施できていないが、一部順調な取り組みもみられる。
C	計画どおり実施できていない。

外部評価委員会による評価結果

項目		委員会としての評価	成果の評価と今後の課題
I. 目標達成度	女性研究者の在職比率、上位職比率、採用比率	B	●目標未達成の「女性研究者の採用」について、計画策定が年度途中だったことが理由とのことであるが、引き続き、目標達成に向けた取組みを求めたい。
II. 実施体制	実施体制の構築	A	●委員会や会議等が適切に設置・開催され、9名の専任スタッフが確保されていることは評価できる。
III. 取組内容と成果	女性研究者の上位職育成・積極登用	B	●「ダイバーシティ研究環境整備費制度」について、早期導入に期待する。 ●女性教授のいない学部が存在することだが、その解消は優先課題として取り組んで欲しい。
	女性研究者の活躍支援	A	●様々なセミナーを幅広く開催するとともに論文校閲・校正費助成事業や RESPECT 共同研究助成など、資金面での実質的な支援を高く評価したい。複数のキャンパスがあるなど難しい面はあるかもしれないが、引き続き、多くの参加者を集める努力をして欲しい。
	ダイバーシティ研究環境整備	S	● IRIS や岡村賞など、大阪公立大学ならではの取組みが充実している。IRIS とその活動、IRIS への支援が学外から評価されたことなどを高く評価するとともに、今年度の更なる加速を大いに期待したい。
	情報発信・意識啓発	S	●地道な広報活動に加え、2つの学外の賞の受賞は誠に喜ばしく、学内だけでなく学外へも大きな影響があったと推察する。様々な発信を通じて、他大学等からも注目を集めることができています。 ●キャンパスを越えた相互交流、研究全般の悩みを共有できる場が設定されることを期待する。 ●多様な対外イベントに関わり、情報発信に努めたこと、また支援室長・センター長が表彰されるなど女性研究者支援事業が評価されたことを高く評価する。
総合評価		A	●一部実施できていない計画もあるが、全体として適切に事業を進めている。文化の異なる2つの大学の統合直後であり、また規模の大きな大学なので、多くの困難があると想像するが、引き続き、設定した目標の実現に向けたご尽力を期待する。

事業報告

事業一覧

2024年	6月4日	キャリアデザインセミナーを開催
	7月11日	スキルアップ支援セミナー 外部資金獲得セミナーを開催
	7月30日	日経STEAMシンポジウム2024に参加
	8月19日	スキルアップ支援セミナー プレゼンテーション力向上セミナー【基礎編】を開催
	8月30日	外部評価委員会を開催
	9月20日・30日	スキルアップ支援セミナー プレゼンテーション力向上セミナー【実践編】を開催
	9月27日	第一回研究者交流会を開催
	12月2日	女性研究者表彰制度 岡村賞 表彰式・記念講演会を開催
	12月20日	スキルアップ支援セミナー 英語スキルアップセミナーを開催
2025年	1月17日	スキルアップ支援セミナー マネジメントセミナーを開催
	3月25日	RESPECT 共同研究助成 成果報告会・第二回研究者交流会を合同開催



女性研究者 採用・上位職登用促進

【新】ダイバーシティ研究環境整備費制度

女性研究者増加のための取組の一環として部局と連携を図り、2022年度～2023年度に部局が独自に実施した女性研究者や若手研究者の研究継続と活躍を支援した取組みを対象に、本学の研究環境整備に貢献し他部局のモデルとなる部局を表彰しました。採択部局には、今後も部局における支援体制を整えられるよう、1部局あたり100万円が付与されました。

採択部局

現代システム科学研究科	文学研究科
法学研究科	理学研究科
工学研究科	農学研究科
医学研究科	リハビリテーション学研究科

【新】プロモーションメンタープログラム

女性研究者の上位職昇進を促進することを目的として、女性研究者の抱える様々な課題や不安（研究グループ・部局のマネジメント方法や部下等との人間関係、管理職リーダーのキャリア形成、仕事と生活の調和など）について、上位職の研究者が支援・助言を行うプログラムを実施しました。

対象

2024年度 RESPECT 共同研究助成
採択者 5名

実施期間

2024年11月～2026年3月（2年間）

Ⅱ 研究力向上・リーダー育成

RESPECT 共同研究助成

女性研究者が研究チームのリーダーとなる活動を促進することを目的に、女性研究者に競争的インセンティブとして共同研究費を支援しました。

対象	性別	職位等	条件
	女性のみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 准教授 ● 講師 ● 助教 ※任期付含む 	<ul style="list-style-type: none"> ● 共同研究者1名以上を含むチームの研究代表者であること ● 2023年度のスキルアップ支援セミナーに1回以上受講していること ● 新たに編成したチームで応募者自身がリーダーシップを発揮し、意欲的に取り組む創発的・挑戦的な研究課題があり、今後の長期的な発展・ステップアップへの意気込みがあること ● 2020年度以降のRESPECTに採択されていないこと

審査結果 申請件数：10件、採択件数：5件

採択者	採択金額(2年間)
桑原 希世子 (国際基幹教育機構 准教授)	200万円
Jean Lin (文学研究科 准教授)	200万円
三枝 栄子 (理学研究科 講師)	200万円
及川 典子 (工学研究科 准教授)	200万円
高井 飛鳥 (工学研究科 助教)	200万円

2023年度採択者による成果報告会

開催日	2025年3月25日(火)
開催場所	杉本キャンパス 学術情報総合センター 1階 文化交流室

登壇者(2023年度採択者)	
中川 智皓	(工学研究科 准教授)
松尾 薫	(農学研究科 准教授)
松原 三佐子	(獣医学研究科 准教授)
早見 直美	(生活科学研究科 准教授)

スキルアップ支援セミナー

■外部資金獲得セミナー

開催日	開催場所	参加人数	共催
2024年7月11日(木)	オンライン (Zoom)	118名	和歌山大学 大阪公立大学 女性研究者支援室

参加者の声

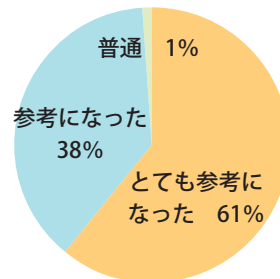
- 今年度何が新しくなったのか、という情報収集に役立った。自分の申請書のまとめ方をイメージできた。
- 申請項目の捉え方や審査基準が明確だったため、個別の研究目的について想像しながら受講することができた。

個別支援

セミナーを受講した女性研究者を対象に先着10名限定で、ロバスト・ジャパン株式会社による研究計画調書のレビューを実施しました。

参加者の声

- 丁寧に申請内容を精査してもらえた。
- 自分の研究計画書に不足している点や改善点を具体的にご指摘いただけたので、参考になりました。動画講座も勉強になりました。



外部資金獲得セミナー
2024年7月11日(木) 13:30-15:30 (開演15分前)

講師: 中川 智浩 氏 (工学研究科 准教授)

内容: 「研究費申請の最新動向」 「採択率を上げるためのポイント」

参加費: 無料

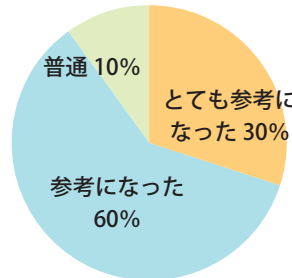
期間	実施人数
7月12日(金)～8月9日(金)	9名

■ マネジメントセミナー

開催日	開催場所	参加人数
2025年1月17日(金)	オンライン (Zoom)	43名

参加者の声

- 自分の研究室運営、研究の進め方を確認することができたと同時に、課題もわかりました。
- リーダーシップは機能であることや、6種類のリーダーシップ機能のどれが欠けてもチームが成り立たないなど、初めて聞く事でありながらとても納得できた。



マネジメントセミナー

スキルアッププログラム第1回以上受講した大阪公立大学の女性教員（准教授以下の専任教員）の力は、2025年度 RESPECT 共同研究助成の応募資格を得られます。 ※2025年度募集要項を参照してください。

研究チームにおけるリーダーシップとは？

自分らしきリーダーシップとは何か考えてみませんか？
性別問わずご参加いただけます。たくさんのご参加、お待ちしております！

日時	2025年1月17日(金) 13:30~16:30
方法	Zoomによるオンライン開催
対象	大阪公立大学の教職員・研究員（性別問わず）
形式	講義・グループでの意見交換

参加無料

講師 樋口 貴子 氏
株式会社キャリアデザイン 代表取締役
1級キャリアコンサルティング技能士
本学卒業。国際経営学修士。2004年に
関西大学経済学部に入学。2008年に
関西大学経済学部に在学中に結婚。結婚
後企業や学部の両方に在籍し、2015年に
大阪府立大学に在籍しながら博士課程に
進学。2018年に大阪公立大学に就職。2022年
から2024年まで大阪公立大学でリーダーシップ
プログラムに従事。

内容 プロジェクトや共同研究のチームビルディングにおける
リーダーシップについて

＜参加申込方法＞
●右記の二次元コードまたは以下のURLからお申込みください。
お申込みURL ▶ <https://forms.office.com/r/uQ1wfhuey8d>
申込締切：1月10日(金)

主催 大阪公立大学 女性研究者支援室
MAIL: gr-sky-upport@omu.ac.jp
TEL: 072-247-6099 (内線: 中務員507) / 平日 9:00-17:00

女性研究者外国語論文校閲費助成事業

女性研究者の研究成果の発信支援を目的として、研究のスキルアップにつながる外国語論文校閲費を助成しました。

対象	性別	職位等	条件
	女性のみ	<ul style="list-style-type: none"> ●専任教員(任期付教員を含む) ●特任教員(病院講師含む) ●前期臨床研究医、後期臨床研究医 ※いずれも2024年4月以降、本学に従事し、社会保険料負担がある者に限る <ul style="list-style-type: none"> ●研究員(博士号を持つもの) 	<ul style="list-style-type: none"> ●2024年8月1日～2025年2月28日までに外国語論文の校閲・校正を行い、納品・検収が完了するもの ●自身が主たる著者(筆頭または責任著者)として発表するものに限る(原則として実施年度につき1人1件) ●助成対象となる執筆行為 <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の学術誌、書籍等への外国語論文の投稿(アブストラクト含む) ・国際会議等のための外国語による発表用原稿の作成

助成金額 上限10万円(税込み)

利用人数 15名
2025年2月現在

【新】科研費申請支援

女性研究者支援室 URA による科研費の申請支援を実施しました。面談にて研究構想を聞き、学術的な独自性や創造性などの研究の魅力を確認したうえで、研究計画調書の添削やアドバイスをを行いました。

対象	性別	条件
	女性のみ	本学に研究者番号があり、令和7年度科研費に応募する者 加えて、以下の支援を受けていない者 <ul style="list-style-type: none"> ●研究推進課が主催する(伴走型)対面アドバイス支援、匿名アドバイス支援 ●女性研究者支援室が主催する外部資金獲得セミナーの個別支援 ※研究分担者であっても研究計画調書の作成に関わっている申請も対象とする

利用人数 15名

Ⅲ 研究者育成

女性研究者表彰制度〈岡村賞〉

次世代の優秀な女性研究者を育成し、研究者におけるジェンダー平等に寄与することを目的として、創造的かつ意欲的に研究活動を行い、ジェンダー平等に貢献している本学の女性研究者を表彰しました。

賞	対象	賞金	受賞者
特別賞	専任教員	10万円	牧浦 理恵（工学研究科 准教授）
奨励賞	研究員、特任教員、前期・後期臨床研究医	5万円	垣谷（石川）有紀（医学研究科 病院講師）
大学院生奨励賞	大学院生	各5万円	吉原 晶子（理学研究科 博士後期課程2年）
			小西 亜佑（理学研究科 博士後期課程2年）
			山中 里奈（工学研究科 博士前期課程2年）
			木下 千紗都（看護学研究科 博士後期課程2年）

表彰式・記念講演会

開催日	2024年12月2日(月)
開催場所	杉本キャンパス 学術情報総合センター 1階 文化交流室



理系女子大学院生チーム IRIS

IRIS（アイリス）は、次世代の女性研究者・技術者を育成することを目的として結成された理系女子大学院生チームです。IRIS自身が互いに刺激し合い成長することを目標に、研究活動と両立を図りながら多様な活動を行っています。

2024年度はIRIS第14期生として43名が活動し、大阪府内の行政等から依頼を受けて、小中高生対象の科学実験教室「IRISサイエンス・キャンパス」や、中高生対象の「IRIS 進路講演会」を開催しました。



活動の詳細については
こちらよりご覧ください。



Ⅳ 環境整備

研究支援員制度

研究時間の確保が難しい妊娠・出産・育児または介護の時期にも研究等の職務を継続し、研究力の向上を図るため、研究を補助する支援員を配置しました。

対象	性別	職位等	条件
	男女とも	●専任教員（任期付教員を含む）	●妊娠・出産 ●育児（末子が小学校6年生以下） ●介護
	女性のみ	●特任教員（病院講師含む） ●前期臨床研究医、後期臨床研究医 ※いずれも2024年4月以降、本学に従事し、社会保険料負担がある者に限る	

※末子が中学校1年生以上でも、いずれかに該当する場合は支援対象とする

①身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている場合

②地方公共団体が実施する障がい児施策の対象になるなど、①と同等程度の障がい有りと認められた場合

支援状況	
支援利用者数	87名
研究支援員の平均利用時間	7.8時間/週 (最大10時間)

性別・支援理由 (のべ人数)			
	妊娠・出産・育児	介護	計
女性	41	14	55
男性	32	12	44
合計	73	26	99

※支援理由の重複12件あり(女性4名、男性8名)

ベビーシッター割引券発行事業

公益社団法人全国保育サービス協会が実施する「ベビーシッター派遣事業」を利用し、在宅保育サービス(ベビーシッター等)を利用する際の料金の一部を助成しました。

対象	性別	職位等	条件
対象	男女とも	●専任教員	●0歳～小学校3年生(障がいがある場合は6年生まで)の児童の保護者 ●配偶者が就労しているほか病気療養、求職活動、就学、職業訓練等、ひとり親家庭により、ベビーシッターのサービスを使わなければ就労が困難である人
	女性のみ	●特任教員(病院講師含む) ●前期臨床研究医、後期臨床研究医 ※いずれも本学に従事し、社会保険料負担がある者に限る	

対象サービス

- 家庭内における保育や世話(家庭外は利用不可)
- 家庭と保育所等の間の送迎

利用実績

2025年2月現在

購入枚数：800枚
利用者人数：10名

学内保育施設

教職員等の仕事・研究と育児の両立を支援するため、本学が事業所内保育所を運営しています。

- つばさ保育園(中百舌鳥キャンパス)
- 杉の子保育園(杉本キャンパス)
- カンナ保育所(附属病院)
- 病児保育室「たんぽぽ」(附属病院)



【新】女性講演者登壇助成

本学が開催するシンポジウム等の登壇者における女性比率を上げ、女性の活躍を「見える化・魅せる化」するために、女性登壇者分の謝金を補助しました。

対象

本学の部局・部署または教員などが主催する、定員がおおむね100人以上(オンライン含む)のシンポジウム等で、女性が登壇するもの

利用件数

2件

「会議は17時まで」キャンペーン

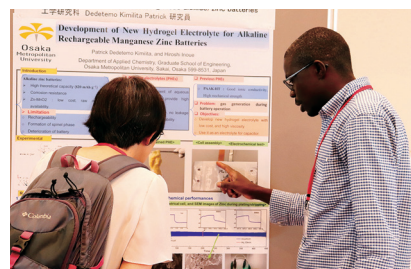
会議時間の適正化と時間外勤務の縮減を図ることを目的として、「会議は17時まで」のポスターを学内に掲示しています。



研究者交流会

研究の内容や普段温めてきた考えや抱いていた疑問を専門の壁を越えて語り合い、新たな視点を獲得して、今後の研究の展開に繋げることを目的に研究者交流会を開催しました。様々な分野から研究者が集まり、ポスター等を展示し、発表と交流を行いました。

	開催日	開催場所	参加人数	共催
第一回	2024年9月27日(金)	中百舌鳥キャンパス 学術交流会館	37名	大阪公立大学 URA センター 大阪公立大学 女性研究者支援室
第二回	2025年3月25日(火)	杉本キャンパス 学術情報総合センター1階 文化交流室	—	



キャリアデザインセミナー

大阪府男女いきいき大賞・優秀賞を受賞した企業から講師をお迎えして、各社の女性活躍推進の取り組みやワークライフ・バランスのコツなどについてご講話いただきました。

開催日	開催場所	参加人数	共催
2024年6月4日(火)	中百舌鳥キャンパス A4棟401室	47名	大阪府 大阪公立大学 女性研究者支援室

日経 STEAM2024 シンポジウム (学外との連携事業)

「STEAM教育」の普及・浸透を目指し、「学生サミット未来の地球会議」「女性研究者座談会」「ブース相談会」などのイベントに本学の学生・教員が参加しました。

開催日	開催場所	主催
2024年7月30日(火)	ATC ホール	日本経済新聞社大阪本社

広報活動

女性の活躍を「見える化・魅せる化」するために、女性研究者支援室ホームページにて女性研究者についての記事を多数掲載しています。「女性研究者活躍紹介」では女性研究者の研究成果や受賞報告の記事を掲載し、「ロールモデル」では本学女性研究者の体験談や後輩研究者へのメッセージを掲載しています。

女性研究者支援室のロゴができました！

2023年2～3月に学内で投票を行い、279名の教職員や学生のみなさまの投票によって決定しました。華やかに開いた花から上へ上へと昇りゆく研究者を表現しています。



大阪公立大学
女性研究者支援室

Women Researchers Support Office
of Osaka Metropolitan University

【新】学内教職員アンケート

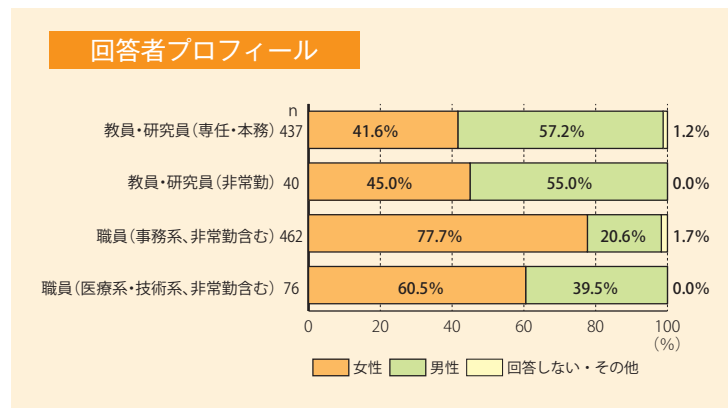
本学の教職員が仕事・研究と家庭生活・個人生活を両立しやすく、性別に関わらず、誰もが活躍できる職場環境を目指すべく、教職員へのアンケート調査を実施しました。

調査期間	2024年8月8日(木)～2024年8月23日(金)
調査手法	Webアンケート
対象者	本学教職員(非常勤含む)5,500名
回収数	1,020(回答率 18.5%)

●結果の概要

研究者支援事業の認知度

全体では「学内保育施設」91.3%、「女性研究者支援室」89.5%が高く、教員・研究員に限定すると「研究者へのスキルアップセミナー」92.9%も高い。一方で、「女性講演者登壇助成制度」38.7%、「RESPECT共同研究助成」34.8%が低かった。これは「女性講演者登壇助成制度」は今年度できたばかりであり、「RESPECT共同研究助成」は女性の准教授以下のみが支援対象となっているため、認知度が低かったと考えられる。



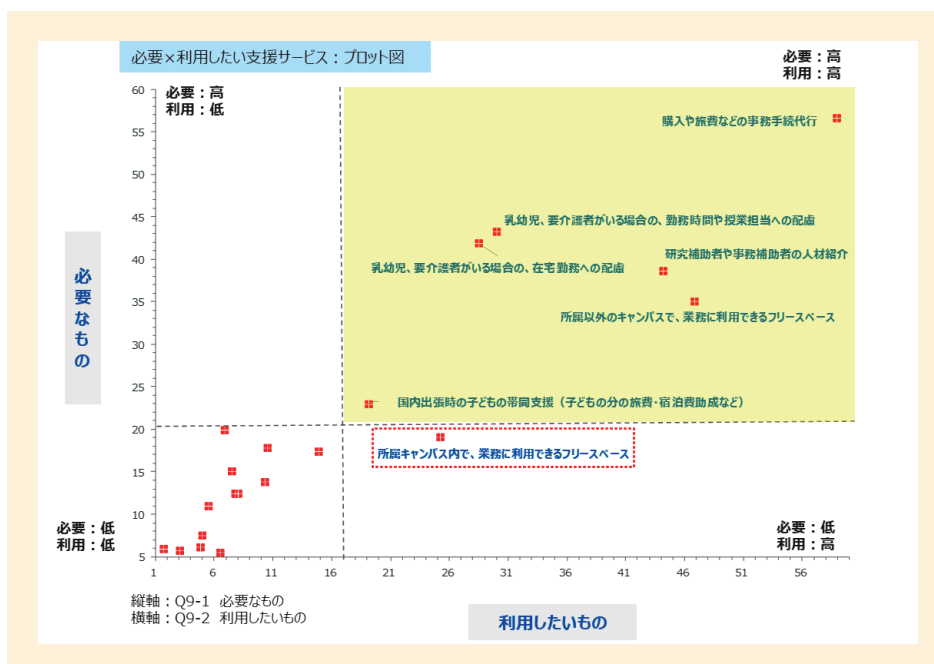
ダイバーシティ推進のための目標の認知度

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)の目標値について尋ねたところ、全体の59.1%が知っていた。年齢が上がるほど認知度が高く(30歳代46.4%、40歳代58.6%、50歳代65.5%)、女性(52.9%)よりも男性(68.2%)の方が知っていた。職種別では職員(事務系50.0%、医療系・技術系28.9%)よりも教員(75.8%)の方が知っていた。

教員・研究員の支援ニーズ

「あればよいと思うもの」「利用したいもの」別にきいたところ、「購入や旅費などの事務手続代行」が、あればよい56.6%・利用したい58.9%と突出して高かった。他には、業務に利用できるフリースペース、研究補助者

や事務補助者の人材紹介、乳幼児、要介護者がいる場合の勤務時間や授業担当および在宅勤務への配慮、出張時の子どもの帯同支援(子どもの分の旅費・宿泊費など)が高かった。このうち「出張時の子どもの帯同支援」については、出張先の学会大会や研究会などに託児がついていたり、ベビーシッターなどの子育て支援を受けられたりすることが増えているため、子育て期の研究者ならではの支援ニーズだといえる。





大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

大阪公立大学 女性研究者支援室 2024 年度 事業報告書
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」

発行日 2025年3月発行
発行 大阪公立大学 女性研究者支援室
連絡先 〒599-8531 堺市中区学園町1-1 C4棟
Tel: 072-254-9856
Mail: gr-knky-wsupport@omu.ac.jp